

しもかけ よせじま
下懸・寄島遺跡(本発掘調査A)

所在地 安城市小川町地内
(北緯34度54分34秒 東経137度05分45秒)

調査理由 中小河川改良工事

調査期間 令和4年6月

調査面積 95m²

担当者 樋上 昇・池本正明・田中 良



調査地点(1/2.5万「安城」・「西尾」)

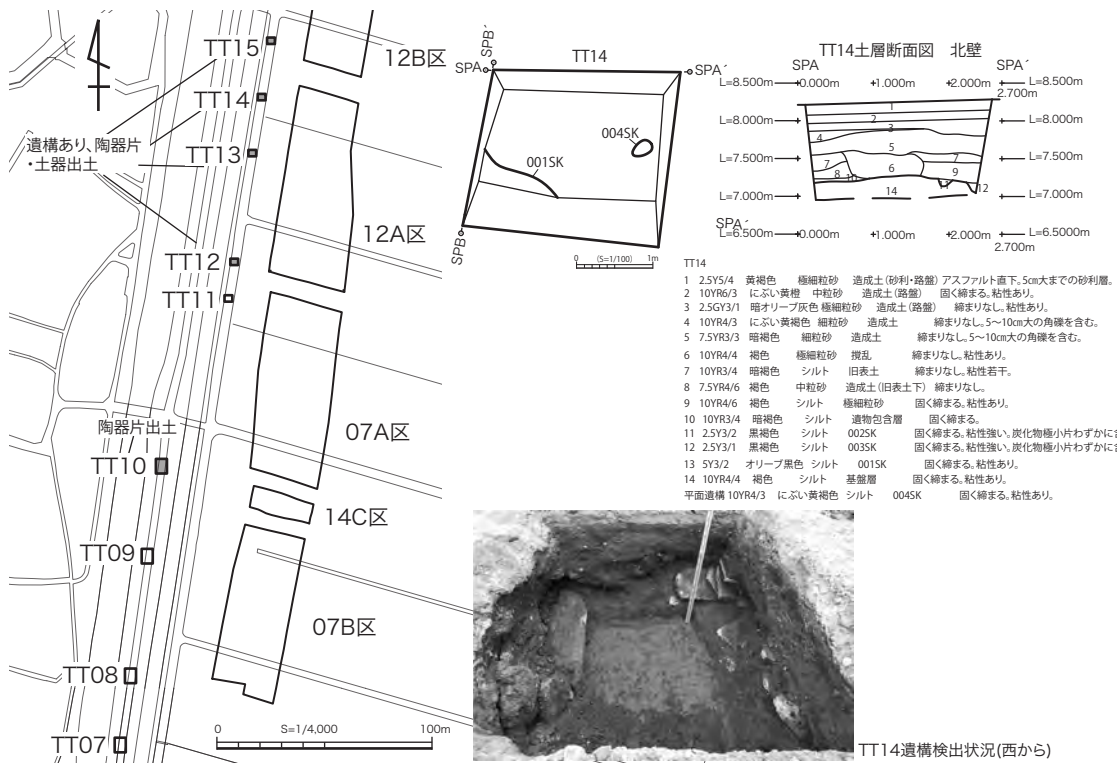
調査の経過 調査は愛知県建設局河川課による中小河川改良工事に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託事業として実施した。調査地点は、鹿乗川左岸と中堤防の事業予定地に、3m×6m、3.2m×5m、2m×2.5mのテストトレンチ(TT)を9箇所設定して、遺構と遺物を検出するとともに土層の状況を確認した。

立地と環境 遺跡は矢作川下流域の鹿乗川左岸の沖積地に立地する。遺跡の西方、鹿乗川右岸の碧海台地上には、前方後円墳の姫小川古墳をはじめとする、この時期の古墳群が展開する。

調査の概要 調査は、鹿乗川の中堤防に3m×6mのトレンチを3箇所、3.2m×5mのトレンチを1箇所設定し、鹿乗川左岸に2×2.5mのトレンチを5箇所設定し調査をおこなった。その結果、TT07～TT11では、攪乱によって遺構面が壊されていたが、TT12～TT15では、造成土の下に標高7.3m付近から遺構面が確認され、その遺構面から土坑が検出された。また、細片ではあるものの、土器片も出土している。

まとめ 今回の調査では、中堤防と左岸の一部は攪乱によって、遺構面は確認できなかったものの、左岸は残りが良くこれまでの調査と同様、古墳時代の遺構が展開する可能性が高い。

(田中 良)



下懸・寄島遺跡の本調査 A 概要図 S=1/4,000、TT14 平面図・土層断面図(S=1/100)